

令和3年度三田市高校生議会 質問書

【質問者】 12番 三田西陵高等学校 1年 馬場 楓花 (ばば ふうか)

【担当課】 まちの再生部 都市政策室 交通まちづくり課

【答弁予定者】 まちの再生部長

【質問事項】 地域格差をなくすための取り組みについて

【質問内容】

12番 高校生議員の三田西陵高等学校1年の馬場 楓花です。私からは地域格差をなくすための取り組みについてお伺いします。

私は丹波篠山市に住んでいるため、登下校に公共交通機関の電車やバスを利用しています。三田市は自然豊かでありながら商業も盛んであり、とても過ごしやすいと思います。しかし、その反面、免許を返納した高齢者などの主な移動手段のバスが30分に1本だったり、乗りたい時にタイムリーにバスが来ないことが多いと思います。三田市では、昨年5月から、神姫バス利用者が少ない地域で、貨客混載を運用しています。また、家からバス停まで距離がある地域で、住民たちが協力し合いバス停に送り届けるという取り組みも行われています。私はこのような取り組みが行われていることを知り、とても良い取り組みだと思いました。しかし、実施されている地域はごく一部で、まだまだ実施されていない地域が多いと思います。また、高齢者だけではなく、私が利用しているバスは、「関西学院大学行き」ですので、三田祥雲館の生徒も多く乗っています。そのため、新三田行きのバスでは、西陵生が乗れないことがよくあります。また、新型コロナウイルスの影響で関西学院大学が休校になった時、1時間に1本程度しか運行しておらず、とても不便でした。アンケートをとったところ、半数以上の方が不便だったと答えており、中でも通学にバスを利用している人は30分以上待たないといけない時がありました。これを受けて、高校生に視点を置いた取り組みを行うことも大切だと思います。

そこで、私が考えたのは、塾や幼稚園バスを利用していない時間に、山間部の必要としている所に行ったり、高校生の送迎に利用できるのではないかとことです。高齢化が急速に進む中で、誰もが利用しやすい交通の便を得ることで、市民が他市に流出することを防ぎ、新たな若者が増えることに繋がるのではないかと思います。

以上のことにつきまして、市の考えをお聞かせください。

【答 弁 内 容】

馬場（ばば）議員のご質問の「地域格差をなくすための取り組みについて」にお答えいたします。

公共交通は私たちの暮らしの移動を担い、地域の賑わいや潤いを創出するまちのインフラとして重要な役割を担っています。そして、高齢者や学生など車を気軽に利用できない人を取り残すことなく、誰もが自由で安全に移動ができる持続可能なまちの実現には、公共交通の役割はこれまで以上に重要なものとなってまいります。

先のコロナ禍でも、交通事業者においては、大幅に利用者が減少する中、できる限り皆様の日常生活に支障がでないよう、減便は夜間の最小限におさえるなど工夫しながら運行継続に努めていただいたところです。

議員ご提案の地域にある塾や幼稚園、企業がもつバスなどは、公共交通事業者によるバスや鉄道では補うことができない地域の移動ニーズの解決を図るうえで、有効な手段の一つとなりえるものと考えます。

しかしながら、特定の目的で運行する企業バスを地域のニーズに応じて他の目的で活用していくには、地域、企業の相互理解と協力が不可欠となります。

市では、令和元年度に地域の皆様と一緒に考えながら移動課題の解決を支援していくため創設した「地域公共交通検討支援プログラム」を活用して、地域の課題やニーズを的確に捉えつつ、有効性も判断しながら、必要に応じて企業バスの活用に向けた協力体制の構築などを支援してまいります。

そして、誰もが住み続けたいまちの実現にむけ、地域、企業、交通事業者、行政で知恵を出し合いながら、環境に優しい低速モビリティやA Iを活用した予約型乗合交通など、地域の特性に応じた新しい移動システムの活用も含め、幅広い住民ニーズに対応した地域公共交通の充実に取り組んでまいりたいと考えておりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。



貨客混載（三田市北東部高平地区）



バスに乗せられた野菜（画像参照）



